

著者紹介

アブドゥル・ハミド・ムータット

- 1944年、モハマド・アクラムの息子としてパンジシール省バザラクにて出生。
- 1951年小学校入学、1957年軍事学校入学、その後ソ連に留学。最終学歴はキエフ軍事アカデミー修士課程修了。専攻は軍事コマンドおよび無線通信技術。
- 1969年帰国。同年航空大学教官となる。
- 1970年、空軍中央軍守備部門に所属。各種上級職を歴任。
- 1973年7月17日、王政を打倒し第一共和国を樹立した政変において中心的な役割を果たす。共和国樹立によりムハンマド・ダウドがアフガニスタン共和国初代大統領に就任。ダウド大統領により郵政通信相に任命されるも大統領との意見対立により1974年解任。その後4年間自宅軟禁処分を受ける。同僚の多くも投獄される。
- 1978年ダウド政権崩壊により人民民主党政権が樹立され、同年6月、駐日アフガニスタン大使に任命され来日。1987年春、任務終了により帰国。
- 1987年春副首相に任命され1988年から1992年まで副大統領。
- 1992年、ムジャヒディン政権に権力移行を完了しアフガニスタンを離れ、インドへ。1993年から1994年には日本の国民政治研究会に研究員として招かれ来日、滞在。
- 現在はキエフ国際大学(www.kymu.edu.ua)名誉教授として中央アジア・アフガニスタン史を教えるかたわら、研究やセミナーなどへの参加のため世界中を訪問している。
- ペルシャ語(ダリ語)、パシュトゥ語、英語、ロシア語、日本語が流暢。二男一女の父。

● 主な著作

- ・ 広島の悲劇(翻訳:1988年刊行)
- ・ 日本の政治(1988年刊行)
- ・ 闘争に捧げた人生(1978年、ロシア語からの翻訳)
- ・ アフガニスタンの歴史分析(2004年刊行)
- ・ 政府崩壊(2004年刊行)
- ・ 第2の崩壊(出版準備中)
- ・ 第3の崩壊(出版準備中)